

公開フォーラム講演 3 題の抄録

1. チーム医療における看護師の役割—今後どのようなことを考えなくてはならないか

看護学科 教授 坂本 すが

以下についてここでは述べる

- 1) 平成 18 年度医療提供体制のもたらすもの
- 2) ついで看護師 7 : 1 の病院に及ぼす影響
- 3) 病院のなかにおける看護部門のあり方
- 4) 効果的チーム医療とは
- 5) 基礎教育と臨床との分業と協働
- 6) これらを踏まえ今後どのように病院（看護部）は対応していくべきか

2. Nutrition Support における管理栄養士の役割—海外における状況から

医療栄養学科 教授 下田 妙子

これまでの栄養士はフードサービス中心であったが、今後は NST の一員として、ベッドサイドでの患者の栄養管理を行わなければならなくなった。しかしながら、これまで長年にわたって医師の指示のもとに給食管理を行ってきた栄養士達は患者の栄養状態を判断し、チームで栄養管理をすることに慣れていないため何をどうすればよいかわからないというのが現状のようである。

演者は、昨年ニュージーランドの病院で研修の機会を得たので、臨床栄養士の仕事内容について報告する。その中から、わが国の管理栄養士が医療の分野で栄養の専門家としてどのように貢献しなければならないかを探りたい。

3. 医療現場のイノベーション—手術に関わるケアの展開

医療情報学科 教授 大久保 憲

わが国の病院における手術部では、手術件数の増加に見合った麻酔科医の確保問題、複雑化する術式に対する看護師の専門性の問題、DPC 導入下における短期滞在型手術への対応、鏡視下手術の増加における新技術の習得などが問題となっている。

外科系の医師不足の中で特に麻酔科医不足に対しては、諸外国に見られるような麻酔看護師制度の導入、および術中の外回り看護師の権限の強化による役割分担の見直しなど、看護師を中心とする周手術期医療への転換を通じて、安全で質の高い医療を効率よく実施していく手段を考えていかななくてはならない。

今回は、チーム医療の中で手術チームのコミュニケーションを保ちながら、相互理解の下に得意分野を生かしたケアの展開について焦点を当てて考えてみたい。